データベース・バッファ・キャッシュの初期化パラメータ
DB_BLOCK_SIZE
DB_BLOCK_BUFFERS

バッファ・キャッシュは、表、索引、クラスタなどの直前に使用されたデータを、メモリ上にキャッシュしておくために使用されています。

バッファ・プールのメモリは、アドバイス機能を使用して、使用解析計算を行い、最適化量を明示的に指定して割り当てることができる。
ただし、これは、SGA と PGA について自動メモリ管理、自動共有メモリ管理を行っていない場合に限ります

初期化パラメータの設定は、DB_BLOCK_SIZE もしくは、DB_BLOCK_BUFFERS のどちらか一方で指定を行います。

実使用量は、初期化パラメータで設定された値の全部を使用します。

設定メモリ量とパフォーマンス最適値の関係は、SGA のバッファ・キャッシュに関するアドバイス（ＯＥＭ（ＥＭＤＣ） ）を使用することでグラフ化して可視化することが可能です

EMDC → ［ホーム］タブ → 関連リンク・セクション中の「アドバイザ・セントラル」
→ アドバイザ・セクションの中の「メモリー・アドバイザ」

メモリー・アドバイザ

自動メモリ管理 **無効** 有効化
合計メモリ・サイズ　　アドバイス
最大メモリ・サイズ　　.

［**SGA**］**タブ**／［PGA］タブ

自動共有メモリ管理　**無効**　有効化
現行合計 SGA サイズ　512

共有プール	276MB	アドバイス
バッファ・キャッシュ	212MB	アドバイス
ラージプール	4MB	
Java プール	12MB	
その他	0MB	

最大 SGA サイズ　512

アドバイス ボタンをクリックすることにより、解析保存時間での関連変更とメモリ（ バッファ・キャッシュ ）サイズの関係グラフが表示される。
この グラフが平らになる 最も少ないメモリ量が最適値と考えられる